

モモせん孔細菌病には化学的防除、耕種的防除及び物理的防除を組み合わせた総合的な防除対策が必須である

福島県農業総合センター 果樹研究所 病害虫科

部門名 果樹－モモ－病害虫防除

担当者 七海隆之、菅野孝盛、柳沼久美子

I 新技術の解説

1 要旨

モモせん孔細菌病は農薬による化学的防除だけでなく、耕種的防除（罹病部位の除去）、物理的防除（果実の袋かけ、防風ネット等の設置による防風対策）といった総合的な防除対策が基本になる。現地の本病多発ほ場において、これらの防除対策を継続的に実施したところ、大幅に被害が減少したことから、総合的な防除対策の重要性が改めて明らかになった。

- (1) 福島市内現地の同一のモモほ場（品種「あかつき」）において、2017～2018年に総合的な防除対策を実施した。
- (2) 薬剤による防除は、3～10月にスピードスプレーヤによる現地慣行の防除を実施した。春型枝病斑のせん除は4～6月（実施回数：3～6回）、果実の袋かけは5月下旬～6月上旬に実施した。防風ネットは2016年の冬季に、ほ場の北面、東面及び南面の一部に設置し、2017年以降は生育期間中にネットを展張した（図1）。
- (3) 総合的な防除対策を実施しなかった2016年5～7月における発病葉率の最大値は10.9%、発病果率は12.7%であった（表1、表2）。
- (4) 総合的な防除対策を実施した2017～2018年5～7月における発病葉率の最大値は1.0%、発病果率は0%であり（表1、表2）、2016年と比較して被害は大幅に減少した。

2 期待される効果

- (1) 本病の被害を抑制することができ、高品質な果実の安定生産に寄与できる。

3 適用範囲

- (1) 県内のモモ生産者

4 普及上の留意点

- (1) 春型枝病斑の発生は長期間にわたるため、病斑のせん除は複数回実施する。その際は可能な限り一年枝の基部からせん除する（図2）。
- (2) 果実の袋かけを行う場合は、仕上げ摘果終了後に速やかに実施する。

II 具体的データ等



図1 福島市現地ほ場における防風ネットの設置状況
(防風ネットは北面、東面及び南面の一部に設置)

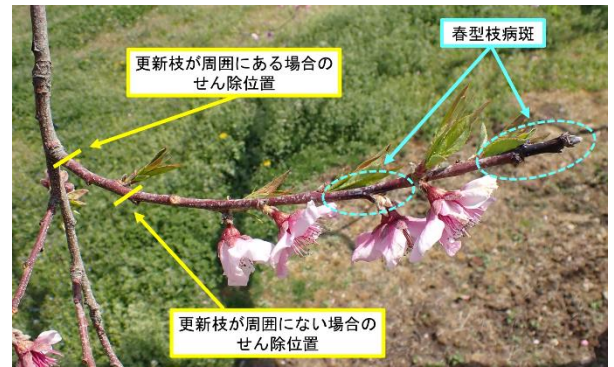


図2 モモせん孔細菌病の春型枝病斑のせん除位置

表1 福島市現地ほ場における新梢葉でのモモせん孔細菌病の発生状況

年次	5月下旬調査		6月下旬調査		収穫直前～収穫期 (7月)調査	
	調査葉数	発病葉率 (%)	調査葉数	発病葉率 (%)	調査葉数	発病葉率 (%)
2016 (総合的防除対策は未実施)	562	6.6	657	5.3	617	10.9
2017 (総合的防除対策を実施)	599	0	788	1.0	900	0
2018 (総合的防除対策を実施)	697	0	770	0	751	0

表2 福島市現地ほ場における果実でのモモせん孔細菌病の発生状況

年次	5月下旬調査		収穫直前～収穫期 (7月)調査	
	調査果数	発病果率	調査果数	発病果率
2016 (総合的防除対策は未実施)	300	12.7	600	3.7
2017 (総合的防除対策を実施)	300	0	588	0
2018 (総合的防除対策を実施)	300	0	837	0

注) 2016年は無袋果実、2017～2018年は有袋果実での調査結果。

【参考】福島市現地ほ場における2019年以降のモモせん孔細菌病の発生状況

年次	5月下旬調査		6月下旬調査		7月下旬調査	
	発病葉率 (%)	発病果率 (%)	発病葉率 (%)	発病果率 (%)	発病葉率 (%)	発病果率 (%)
2019 (総合的防除対策を実施)	0.6	0	1.9	0	8.7	0.2
2020 (総合的防除対策を実施)	0.5	0	2.1	0	17.5	0

注) ぶくしま桃の郷づくりプロジェクトにより、県北農林事務所にて調査を実施。
2019年、2020年ともに果実の袋かけは未実施。

III その他

1 執筆者

七海隆之

2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成28～平成30年度

(2) 研究課題名 果樹病虫害の防除法改善試験〔農研機構生研支援センター 革新的技術開発・緊急展開事業 (うち地域戦略プロジェクト)〕

3 主な参考文献・資料

(1) 落合政文, 福島県におけるモモ穿孔細菌病の発生の特徴と防除対策の要点, 農作物病虫害防除シリーズ第3集, 2003.

(2) 福島県, 総合的病虫害・雑草管理 (IPM) 実践指標, 2016.

モモせん孔細菌病に対する総合的な防除対策を継続して実施することにより、多発生年であっても被害を抑制できる。